

遺跡を訪ねて17

京都市管理の史跡と名勝2

— 鎌倉時代から桃山時代まで —

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

市が管理する史跡の指定地には、公園整備された所もありますが、開発から遺跡を保存するために公有化し、現在はフェンスで周囲を

囲んで更地となっているところと、地上にかつての痕跡を残しているところがあります。前者は醍醐寺境内(栢杜遺跡)・山科本願寺南殿

跡などで、後者は御土居跡・耳塚・馬塚などです。今回は「鎌倉時代から桃山時代まで」の史跡12件を紹介します。(加納敬二)



13 史跡 醍醐寺境内(栢杜遺跡) 伏見区醍醐栢森町 1983年追加指定

栢杜遺跡は平安時代後期から鎌倉時代に醍醐寺の子院として建立された寺院跡です。1973～1974年の発掘調査で八角形と方形の堂跡、庭跡などが発見されました。



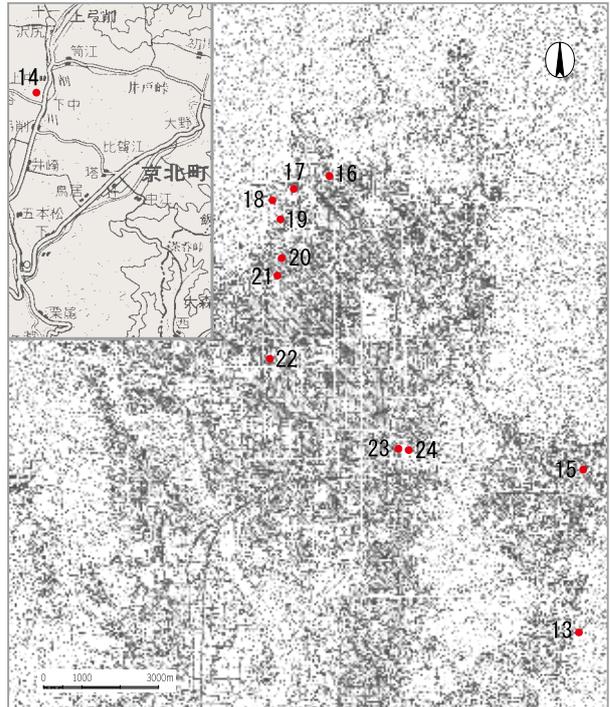
14 市指定史跡 上中城跡 右京区京北上中町 2005年指定

若狭と京をつなぐ周山街道沿いの要所に築城された中世の平城跡です。発掘調査で堀や掘立柱建物が検出されました。土塁も完存しており、史跡公園として保存整備されています。



15 史跡 山科本願寺南殿跡附山科本願寺土塁跡 山科区音羽伊勢宿町他 2002年指定

南殿は、延徳元年(1489)に蓮如上人の隠棲地として山科本願寺の東側に造営されました。土塁・濠跡・園池跡・築山が現存し、建物跡が調査で見つかっています。



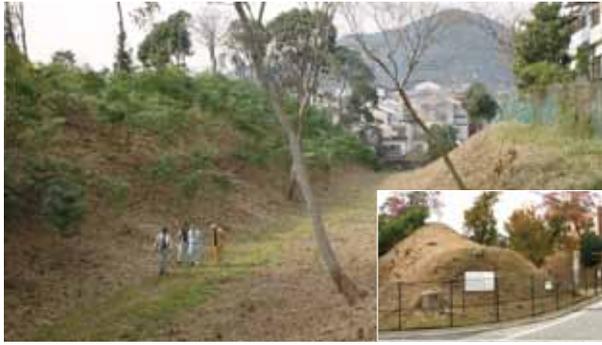
今回紹介した史跡の位置

地図中の数字13～24は、リーフレット京都No.317からの通し番号



16 史跡 御土居 北区紫竹上長目町・上堀川町 1930年指定

御土居の北東角の屈曲部にあたります。堀川通の西と東に分断されています。東側は鴨川の氾濫から市街地を守る堤防の役割を果たしていました。



17 史跡 御土居 北区大宮土居町 1930年指定

残存する御土居の中でも保存状態が良く、長さ約250mにわたり土塁と堀が残ります。土塁上には竹林があり、当時の御土居の姿がしのべれます。



18 史跡 御土居 北区鷹峯旧土居町 1930年指定

御土居の北西角にあたります。御土居跡の東前には南北方向に旧道・鷹ヶ峯街道（千本通の延長）が通り、御土居の出入口・七口のひとつである長坂口にあたります。



19 史跡 御土居 北区鷹峯旧土居町 1930年指定

1981年に史跡公園として整備され、地域住民の憩いの場となっています。土塁の頂部まで登ることができ、その高さを体感できます。



20 史跡 御土居 北区紫野西土居町 1930年指定

住宅地の一角で、民家に囲まれています。わずかに面影を残しています。西土居町という地名からも、御土居の名残が感じられます。



21 史跡 御土居 北区平野鳥居前町 1930年指定

台形の土塁に芝が植えられており、史跡の中でも、その形状が最もよくわかります。道路脇には御土居やその周辺から出土した石仏が祀られています。



22 史跡 御土居 中京区西ノ京原町 1930年指定

土塁に接して社殿があり、御土居そのものが市五郎稻荷神社として信仰の対象になっています。鳥居が並ぶ参道部分が堀跡といわれています。



23 史跡 方広寺石塁および石塔(耳塚) 東山区正面通大和大路東入茶屋町1969年指定

豊国神社の西、正面通の南側にあり、墳丘の上に大型の五輪塔を安置するもので、江戸時代の文献や絵図に「耳塚」が描かれています。



24 史跡 方広寺石塁および石塔(馬塚) 東山区正面通大和大路東入茶屋町1969年指定

馬塚は豊国神社境内の宝物館裏にある秀吉の供養塔とされ、秀吉が創建した方広寺の石塁や耳塚とともに国史跡に指定されています。